

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

① 施設・事業所情報

名称：横濱中華幼保園	種別：幼保連携型認定こども園	
代表者氏名：園長 矢野淑明	定員（利用人数）： 200名（188名）	
所在地：〒231 - 0023 横浜市中区山下町142番地		
TEL：045-651-0447	ホームページ： <a href="http://www.yocs.jp/YOCS/">www.yocs.jp/YOCS/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日： 2021年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 学校法人 横濱中華學院		
職員数	常勤職員： 34 名 非常勤職員 17 名	
専門職員	保育教諭 33名	調理員 5名
	看護師 1名	事務員 4名
	栄養士 2名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室 9室	遊戯室、給食室、事務室、更衣室、相談室、職員休憩室、屋外遊技場など

③理念・基本方針

教育・保育理念

- ・ 幼児期の教育・保育を一体的に行い、子ども達が互いの個性を尊重し、認め合いながら心身の成長が健やかにできる環境を整備します。
- ・ 幼児期より中国語に親しみながら、保育と中華伝統文化の体験型幼児教育を実施し、国際性豊かな感性と広い視野を持った子ども達を育てます。
- ・ 保育教諭の資質と専門性の向上に務め、質の高い教育・保育を展開します。
- ・ 保護者や地域の子育て支援に寄与し、地域とのつながりを大切にします。

④施設・事業所の特徴的な取組

園は、2021年にそれぞれ歴史がある法人内の保育園と幼稚園が一緒になり、幼保連携型認定こども園となりました。横浜中華學院小学部、中学部、高等部と同じ校舎内にあり、校庭や体育館も一緒に使用しています。

園は学校法人横濱中華學院内に属していますが華僑、華人のためではなく、地域に住む人々にも「親仁善隣」（周囲の国や人と仲良くする）の精神を持ち、多種多様な文化、国籍の子ども達の保育に携わっています。

特色として中国獅子舞・龍舞の伝統文化や中国語教育を取り入れています。また、英語（4、5歳児）、体操、リトミックの専科があり、子どもたちは、中華文化や英語に触れたり、体を動かすことを楽しんでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月25日（契約日） ～ 2022年11月7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時）	回（ 年度）

期)

⑥総評

◇特長や今後期待される点

【特長】

**◆体験を通して、子どもたちが文化や価値観の違いを理解し、視野を広げられるようにしています**

園は、保育方針に基づき日本の保育を基本としながら、中国語や中国の伝統文化を取り入れることで、子どもたちが体験を通して多様な文化や価値観があることを理解できるようにしています。中国語の挨拶や単語などを日常保育に取り入れるとともに、3歳児からは、中国語と英語、獅子舞や龍舞などの伝統文化を取り入れています。行事もひな祭りなどの日本の行事だけでなく、旧正月などの中国の行事を取り入れ、行事食や雰囲気子どもが味わえるようにしています。たとえば、お月見で月餅をおやつに提供し、制作で台湾の習慣である焼肉を取り上げるなど、日本と中国の文化の違いを子どもが体験できるようにしています。

このような取り組みを通して、子どもたちは言葉や文化、習慣だけでなく障害などお互いの違いを理解し、多文化や多様性を自然に受け入れ共に育っています。自由遊びの時間には、子どもたちは好きな遊びを選び、日本語と中国語を交えながら友だちとあるいは一人で、それぞれの好みや関心に合わせて楽しそうに遊んでいる姿を見ることができました。

**◆保育士間で連携し、子どもと保護者が安心して生活できるように支援しています**

保育教諭は、クラスで子どもや保護者の様子について話し合っ課題を抽出し、記録しています。情報は、保育会議で共有し、対応について意見交換し、指導計画に反映しています。日々の保育の中でも、職員間で密に声を掛け合っ子どもの状況を共有し、連携しています。乳児は、0歳児は1クラスですが、1歳児は月齢、2歳児は子どもの状況を考慮して2クラスに分け、個々の成長・発達、課題に合わせて支援しています。園は中華街の中にあり、華僑や中国籍の子どもが多数在籍していますが、日本語が理解できない子どもや保護者には中国語ができる保育教諭が対応し、お手紙や掲示物も日本語と中国語を併用するなど配慮しています。発達などだけでなく習慣や子育ての考え方の違いにも配慮し、園の考え方を伝えて家庭と連携し、子どもの気持ちを尊重しながら個別に対応しています。卒園式などの行事で園服を貸し出すなど、保護者の状況に応じた支援もしています。

**◆地域に密着し、連携して地域の課題解決に向けて取り組んでいます**

園は、理念や方針に基づき、地域とのつながりを大切にしています。法人は、明治までさかのぼる長い歴史があり、卒業生も地域に多く、様々な情報を得ることができま。園長は、中区園長会等の地域の関係機関の各種会議に出席するほか、町内会や横浜中華街発展会協同組合など地域の多くの団体に所属していて、福祉にとどまらない地域の様々な生活課題の解決に向けて連携して取り組んでいます。地域の関係機関とも密に連携し、専門性を保育に反映しています。

職員や子どもたちも地域のお祭りで獅子舞や龍舞を披露したり、職員が地域清掃活動に参加したりしています。また、専科や龍舞の講師を始めとして地域の様々な年代の人々と接したり、お祭りだけでなく出初式や交通安全教室など地域の様々な行事に参加したりする機会も多くあり、地域住民に見守られ、子どもたちの生活の幅が広がっています。

【今後期待される点】

**◆中長期計画を基に、職員も参画して年度の事業計画を作成していくことが期待されます**

園は、認定こども園となったことを踏まえて、保育園・幼稚園双方の良さを生かすことを念頭に、「幼保一元化による相乗効果」「学校法人や地域の特性を活かした保育環境の確立」「中華文化を通じての人材育成」の3点を重点事項とした中長期計画を作成しています。ただし、予算書と年間行事計画は作成されているものの、中長期計画を踏まえた事業計画は策定されていません。また、理念を共有しているものの、幼稚園・保育園の良さを今後どのように生かしていくかについての話し合いも十分とは言えず、職員からも声が上がっています。

理念に沿った保育の実践に向けて職員と話し合っ方向性を共有し、職員も参画して事業計画を作成し、計画的に取り組まれていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

認定こども園となって初めての第三者評価となりました。

幼保一元化による相乗効果を目指していきたいという強い思いがある一方で、それをどのように常日頃の保育に活かし、反映していけば良いのかを模索している現状をご指摘いただきました。

職員に対してもきめ細やかに評価していただき、職員自身の今後へのやる気にも繋がります。多様な考え方を持つ保育教諭一人一人の意見を尊重しながら、より良い保育を実施できるように心がけていきます。

保育内容については総じて高い評価をいただき、職員の日頃の努力が客観的にも認められました。それに慢心することなく、改められる部分は改め、より良い保育を目指したい所存です。

幼稚園と保育園が一元化して二年目を迎え、日々の保育内容はより一層充実したものを目指しています。ただ、幼保一元化の認定子ども園になったことによる目指す保育という理念や方向性について職員一人一人がどう考えているのか、職員間で話し合う機会がまだまだ足りていないと、今回の評価からも伺い知ることができました。その点を今後の課題として、幼保一元化による相乗効果を具体的に保育の中でいかに取り組んでいけるかを職員全体で話し合っしていきたいです。

最後になりますが、今回の第三者評価受審のアンケート提出につきまして、保護者の皆様にはお忙しい中、ご協力いただき、深く感謝いたします。また、よこはま地域福祉研究センター及び調査委員の方々に感謝いたします。

幼保園として初めての第三者評価受審で気付かせていただいた自分達の良さや課題点を今後の園運営に活かしていきたいと思ひます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり